情報読み解く大切さ説く

ジャーナリスト・神保哲生さん

経営学部・経営組織論A特別講義

ジャーナリストの役割を話した神保さん

経営学部・見山謙一郎特任教授の授業「経営組織論A」で、外部講師による特別講義が6月13日、生田キャンパスで行われた。ジャーナリストでインターネット放送局「ビデオニュース・ドットコム」を主宰している神保哲生さんが「情報を読み解く」をテーマに、メディアリテラシーの大切さを学生約40人に伝えた。

「経営組織論A」は、組織の意思決定プロセスを学ぶ講義。組織が意思決定を行うためには、社会で起きている出来事や社会課題を深く理解する必要がある。ニュース最前線の現状を学生たちに知ってもらおうと、神保さんをゲスト講師に招いた。見山特任教授は冒頭、「情報が氾濫するなか、情報の整理、受け止め方をしっかりと学ばなければいけない。自分にとって、本当に必要な情報こそ、自分から取りにいかなければならない時代だ」と講義の目的を説明した。

神保さんは「私たちが知っている情報の99・9%は、メディアを通して知らされている。にもかかわらずメディアに対してこれほど無知な国は日本しかない」と現状を解き明かす。

消費行動、投票行動なども情報によって動かされているとして、テレビCM、インターネット上のニュースなど具体例を挙げながら説明した。

また、戦場取材で目の前に負傷した兵士がいた時、「助ける」か「助けない」かを学生に問いかけた。報道の役割について考え、迷いながら選択する学生に対し、神保さんは、「報道によって戦争を1日でも早く終わらせることができるかもしれない。何千、何万人の生命を救うこともできる」とジャーナリストの役割と報道の持つ力について話した。

UIターン 知事メッセージ

高知県知事　尾崎正直

誇りと志を持って働ける
高知県で時代を切り拓こう

北に峻険な四国山地、南に雄大な太平洋を抱き、その間に流れる多くの清流。

この独特の地形から、高知県には山、川、海、そして東から西までさまざまな自然にあふれ、そしてその自然が生んだ恵みが存在しています。

ゆず、ナス、生姜、ニラといった全国でも生産量が1位の食材はもちろん、カツオ、清水さばなど、高知は自慢の食材の宝庫でもあります。

そしてこの地からは、坂本龍馬をはじめ数多くの先人・偉人が生まれました。

陽気で豪快、そしておおらかと言われる県民性に加え、よさこい祭りや「おきゃく」といった独特の文化や伝統も高知の風土が生み出したとも言える特徴です。

高知県では、こうした「自然、食、歴史、人」といった本県の強みを生かした一次産業を核として、この一次産業から派生する食品産業、ものづくり産業、観光産業といった産業群を重点的にサポートしています。

そうした中で、最も重要な産業政策の一つは、人材の育成・確保であると考えています。時々の状況に応じた的確な進化を可能ならしめるものは「人」の力であり、これこそが持続的な成長の源です。

幕末の土佐は、「人」を得て歴史上大きな役割を果たしました。現代の高知もまた、「人」を得ることで、人口減少下の成長という21世紀を通じた日本の課題に全国に先駆けて挑戦しています。

こうした社会的課題を解決するためには、専修大学21世紀ビジョンに掲げられている「社会知性」を兼ね備えた皆さんの力が必要になってきます。

本県と専修大学は、昨年11月に就職支援協定を締結し、皆さんに高知のことを知っていただく機会をいただいております。今後とも、高知でしかできないこと、高知から世界に羽ばたいている企業など、就職に関連するさまざまな情報を紹介させていただきます。

専修大学生の皆さん、先例なき時代において、この高知で新しい時代を切り拓（ひら）いてみませんか。心からお待ちしております。

【高知家で暮らす。】https://kochi-iju.jp/
【高知求人ネット】https://kochi-jinzai.jp/for_students.html

プレ就職ガイダンス
3年次生対象に初開催

「応募書類対策」では履歴書の書き方を説明した

3年次生を対象としたプレ就職ガイダンスが6月15日、神田キャンパスで開催された。

ここ数年早まる傾向にある企業の採用選考に向けて、学生の就職に対する意識付けを行うことを目的に、就職課の主催で今年度初めて実施した。

学生が就職活動を見据えて充実した夏期休暇を過ごすことができるよう、就職課スタッフがアドバイス。①インターンシップに参加して仕事を知る②筆記試験対策③学生生活を充実させる——の3点を挙げた。「今から取り組めば十分な時間がある。就職活動で語れるような大学生活を送ろう」と呼びかけた。

真剣に話を聞く3年次生

また、就職活動の準備に必要な「応募書類対策」「企業選びのポイント」「ビジネスマナー」「面接対策」に関する4講座も別教室で実施。学生は、1日で集中して多くの情報に触れることができた。

参加した法学部の男子学生は「就職活動を始めなければと思っていても、どんなことをすればいいのか分からなかった。エントリーシートを書く時に気を付けることや面接試験で企業が見ているポイントなど、具体的な話を聞くことができ、不安を解消できた。今後の活動に生かしたい」と話した。

「地元で働く」道探す

U・I・Jターン合同説明会に270人

地方での就職やインターンシップを希望する学生を支援する『実家でくらす、地元で働く』U・I・Jターンを考える合同説明会」が6月6日、生田キャンパスで開催され、これまでで最多となる延べ約270人の学生が参加した。キャリアデザインセンター事務課と就職課の共催。

和やか雰囲気で学生に情報が伝えられた

5回目となった今回は、これまでで最も多い40道府県1政令指定都市の担当者がブースを設け、「実家に戻って暮らしたい」「地元で働きたい」「首都圏以外で働きたい」などといった学生の相談に応じた。交通費や滞在費を支援したり、週末限定で都内でキャリアコンサルティングを実施したりする自治体など、ユニークな取り組みも紹介した。

新潟県出身の男子学生（3年次）は「地元へのUターン就職を希望している。今日は就職活動に関する話を聞くことができた。夏期休暇に帰省した際、地元でインターンシップとして受け入れてくれる所をこれから探していきたい」と話した。

また、千葉県出身の女子学生（3年次）からは「希望業界の会社は東京に集中していると思い込んでいたが、千葉県のブースで話を聞いて、地元にも存在していることが分かった。就職活動の軸をこれから固めていきたい」という前向きな感想が聞かれた。

参加自治体からも「このような機会は大変ありがたい。一人でも多くの学生に地方への就職、定住に興味を持ってもらいたい」という意見が寄せられた。